第328号
平成3年 1991年 1月

広報やわた

発行 八幡市役所
京都府八幡市八幡園内75
電話 (075)983-1111
編集 企画部秘書広報課

人口 7万5879人 (前月より91人増)
1990年(平成2年) 12月1日
男：3万7761人 女：3万8118人
世帯 2万4432世帯
動き (11月分) ・出生 74人・死亡 38人 ・転入 332人・転出 277人

文化遺産を炎から守ろう

1月26日は文化財防火デーです。文化財は燃えやすい材質が多く、ちょっとした不注意から貴重な文化財をなくしてしまっては大変です。私たちの祖先が守り伝えてくれた文化財を後世に引き継ぐためにも、くれぐれも火の元にはご注意を！

「ぺったん、ぺったん」――八幡小松の中央幼稚園（相原俊子園長）で12月12日、4・5歳児29人による恒例の「もちつき大会」が行われました。毎年この時期に保護者らの協力を得て行っているもので、園庭に用意した木製のうすときねを使って、保護者があらかじめついたもちを園児が順に2人1組になって、小さめのきねを使って力いっぱいつきあげます。ついたもちは約7キロ。最初の1うす目は、新春に園で食べるぜんざい用にと100個の白もちにし、残りはその場できな粉をまぶして全員で試食。園児らは、お正月を待ち焦がれながら、自分たちでついたまだ暖かいおもちの味に、舌鼓を打っていました。

福祉と文化のまち

緑の環境と心の輪を育てる年に

八幡市長
西村正男

明けまして、おめでとうございます。

みなさまには、希望に満ちた新春をお迎えになりましたことを、心からお喜び申し上げます。

〝町〟から〝市〟になってここに十三年。この間、私たちの八幡市は、市制の施行にあたって定めた基本構想の理念にそい、〝緑ゆたかな文化の都市〟〝心のかよう福祉の都市〟を目標にして、まちづくりを進めてきました。

一年一年、毎年毎年、力を合わせて、いろいろな施策を行い、多くの制度を設け、たくさんの施設をつくりあげてきました。

こうして新しい年を迎えるたびに、その一年でなさねばならないことを、ひとつひとつ数えあげては、身のひきしまる思いに打たれるのが新春の常ですが、この年頭にあたって特に感じることは、八幡市がこれまでめざしてきた、そして現にめざしている都市像が、今日では、地球全体の願いとなり、人類共通の目標としてとりあげられるに至ったということです。

〝緑ゆたかな文化の都市〟とは、まさに〝自然と文明がほどよく調和した地球〟の姿であり、〝心のかよう福祉の都市〟とは、いうまでもなく〝相互にたすけあう平和な世界〟にほかなりません。

このことを何よりの喜びとしながら、そしてきびしく受けとめながら、今年も、市議会をはじめ市民のみなさん方のご協力をいただいて、ひとつひとつの課題にとりくみ、着実にまちづくりを進めていきたいと願っています。

八幡市議会議長
家村定男

あけましておめでとうございます。

市民の皆様におかれましては、希望に満ちたすがすがしい初春をお迎えになりましたことをお喜び申し上げます。

二十世紀が始まって九十年が過ぎ、あと十年で二十一世紀を迎えようとしています。文明や科学技術など各分野で目覚ましい発展を遂げた今、私たちの暮らしも随分と豊かになってまいりました。

しかし、いつの時代になっても忘れてはならないのが、人と人との心の輪だと思っております。昨年十一月に市民の代表の方々とともに、私たち市議会の代表も中国の宝鶏市を訪問してまいりました。そこで受けた熱烈な歓迎と中国の人たちのあたたかい心、それに果てしなく広がる大地は、今も忘れることができません。このことは、八幡市が目標にする〝緑ゆたかな文化の都市〟〝心のかよう福祉の都市〟づくりと相通じるものであります。人と人との心がかよい合う街づくりと緑ゆたかなふるさと八幡を守っていくことは、二十世紀に生き、二十一世紀に向かってさらなる飛躍をする私たちの使命だと痛感いたしております。

この大きな目標に向かって進み、そして実現をするために、私たち市議会議員一同が力を合わせ、市長をはじめとする市理事者と一体となり、最善の努力をいたしてまいりたいと考えております。

どうか、市民の皆様並びに関係機関の皆様方におかれましては、より一層のご理解とご協力を賜わりますよう心からお願い申し上げます。

第10回 書初め展 作品を募集

市文化振興会書道部会では「第10回書初め展」の出品作品を次のとおり募集します。

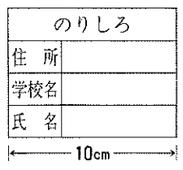
▼展示期間 1月26日（土）から27日（日）まで
▼展示会場 市文化センター1階展示室
▼募集要項 下表の作品課題に基づいて、1月19日（土）午前9時から午後6時までに会場へ搬入（搬出は1月27日午後4時）
▼出品料 1点につき100円（展示室の使用料に充当）
▼その他 作品は仮巻以上の表装をし、出品票（下図）を作品下中央軸内に張ってください。

◆お問い合わせ 市文化振興会書道部長＝大隅（☎981・0558）へ

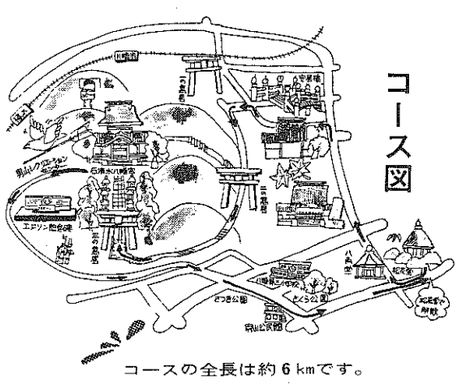
作品課題

参加資格	学年等	課題語句	書体等	用紙	署名
幼稚園児及び小学校児童	幼・小1	ひつじ	漢字は楷書、仮名は漢字に調和する平仮名	○小画仙紙半切大（67cm×18cm）	作品に学年・氏名を自署すること
	小2	よろこび			
	3	思いやり			
	4	生きる力			
	5	富士の山			
	6	世界の友			
中学校生徒	中1	緑の大地	漢字は楷書又は行書、仮名はそれらに調和する平仮名		
	2	友愛の情			
	3	人類の幸福			
その他	高・大・一般	青松終古春 林外雪消山色静 窓前春浅竹声寒	自由	○色紙 ○小画仙紙半切大（67cm×18cm） ○小画仙紙半切（134cm×36cm）	作品に応じて処理すること
		大空に羽子の白妙とどまれり（高浜虚子）			
		田子の浦にうち出でて見れば白妙の富士の高嶺に雪は降りつつ（山部赤人）			

出品票



第13回八幡市民新春のつどい



コースの全長は約6kmです。

平成3年の新春を迎え、市民が一同に集い家族そろって新しい気分で体力づくりと親ぼくを図ってもらおうと「第13回八幡市民新春のつどい」を次のとおり開催します。参加者全員に今年のえと（ひつじ）の記念メダルを進呈するほか、ラッキー賞などの抽選会も行います。多数ご参加ください。

■日時 1月13日（日）午前9時松花堂集合（小雨決行）■対象者 市民及び市内在勤者■方法 ウォークラリー（歩く速さを競うのではなく、あらかじめ主催者が設定した時間にいかに近くゴールするかを競うもので、子どもからお年寄りまで楽しめます）で、主催者が設定した時間に近いグループには賞品を進呈■コース 松花堂～走上り～平谷～石清水八幡宮エジソン記念碑前～男山レクリエーションセンター～さつき公園～さくら公園～松花堂■主催 市、市教育委員会、市体育振興会■協力 市文化振興会■参加方法 直接集合場所へ◆お問い合わせ 市教委社会教育課（☎983―5111市民体育館内）へ

成人式

1月15日（祝）
午前10時開式
（午前9時から受付）
文化センター大ホール

新しい成人の仲間入りをされたみなさんを祝福する「成人式」を開催します。対象は昭和45年4月2日から昭和46年4月1日までの間に生まれた市内在住のみなさんです。該当するみなさんには個々に案内状を送付していますが、万一該当するのに届かない場合でも、直接会場へお越しください。

式のあとの第二部は〝未来を語るはたちの集い〟の時間です。中学校時代の恩師を囲んで、楽しい語らいのひとときを持っていただくように企画しました。ご参加をお待ちしています。

あすを語る

'91新春座談会

市長&新成人

21世紀まで、いよいよあと10年、新世紀に向かってのカウントダウンが始まりました。新春特集として今月号では、今年、成人式を迎えた20歳の人たちに集まってもらい、市長を交えて、ふるさと八幡のことや21世紀をめざした抱負など各面について、次代を担う若者たちの熱い思いを語ってもらいました。

思いは同じ ふるさと八幡

暮らしを満たし明日の中に文化を育てる

全員　明けましておめでとうございます。

市長　おめでとうございます。みなさんは、今年成人式を迎えられるわけですが、これは大変意義のあることだと思います。20世紀の最後の10年を若さみなぎる20代で過ごし、人間として働き盛りの30歳で新世紀を迎えるわけで、まさに未来を担っていく人たちだといえるわけですからね。今日は、みなさんのきたんのない意見を聞かせてもらうことを楽しみにしています。

司会　成人式を迎えられての感想と抱負を一人ずつ話していただけますか。

佐野　成人になったのと同時に、今年短大を卒業して就職し、社会人の一員になるわけですが、経済的にも精神的にも、親から自立したいなと思っています。

吉川　現在電鉄会社に勤めているんですが、社会人になってまだ2年目で、先輩からは「高校生気分が抜けきれていない」と、よく言われるので、成人を機に気持ちの切り替えができればと思っています。

西村　僕は、今、大学2回生なので、あと2年間は学生ですが、20歳になると犯罪を犯しても名前が載るし（笑）、いつまでも子供のようなことはしていられないなというのが率直な気持ちです。

市長　みなさんが生まれた昭和45年から46年頃というのは、ちょうど八幡市が急成長しだした頃なんですよ。日本住宅公団の開発で男山団地ができ、男山の丘陵地帯が順次造成されだした頃で、当時は、まだ町制時代で、人口も約2万4千人程度だったんですよ。それが現在では、3倍を超える約7万6千人もの人たちが住むまちに発展しました。みなさんの成長と比例するような形で、八幡のまちは大きくなってきたんですよ。

司会　子供のころと比べて、大きく変わったなと気付かれることがありますか。

西村　僕は小学校のときから電車で通学をしていたので、八幡市駅のことを覚えていますが、駅の周辺は広く、きれいになりましたね。ビルなんかはありませんでしたからね。

佐野　私も感じるのは、まちが大きくなったということですね。ショッピング街もできましたし、それと、市民まつりを初めとしたイベントなども多くなりましたね。

吉川　僕は小学校3年生まで八幡小学校でしたが、4年生から東小学校ができて新校舎に移り、さらに中学校は新築移転されたばかりの男山中学校でしたし、南八幡高校も4期生でまだ新しかったし、学校だけを見ても、ずいぶんまちが発展したな、という気がしますね。

司会　八幡の良さというのはどうですか。

西村　大学が大阪なのでそう思うのかも知れませんが、八幡は静かだなと思いますね。八幡の駅に帰ってくると、ほっとしますよ（笑）。

佐野　ほのぼのとしていて落ち着くし、ふるさとという感じがしますね。それに、地域的なつながりも残っている。

司会　友達などに八幡の良さを宣伝するとしたら、どんなところをPRしますか。

佐野　地理的には大阪と京都、どちらへ行くのにも便利でありながら、自然が多くあるというところですね。

市長　八幡には自然も多くあるんですが、八幡宮や松花堂や流れ橋など、文化財や観光の名所も多くあるんですよ。重要文化財として指定されているものが、京都市と宇治市の次に多いですし、それに男山の緑というのは、単に木が多いというんじゃなく、自然がそのまま残っているんです。木の種類が極めて多いんですよ。そばには三川が合流していますし、文化財と自然に恵まれたまちなんですよ。そんなところも宣伝をしてくださいね（笑）。

…◇佐野直美さん（学生）★趣味：スポーツ観戦★夢：毎日を楽しく過ごすこと

これからのまちづくり

司会　みなさんが理想とする「まち」の像とは？

西村　自然を守りながら経済を発展させていくことは難しいことだけど、市長が言われるように自然と文明が共存できるまちであればいいなと思います。それと、八幡といえば、これだ、といえるものが欲しいですね。

市長　文化センターは音楽家たちの間では、大変評判がいいんですよ。音響効果は大阪のシンフォニーホールよりもいいといわれていますし、最近は府下の大学のほとんどの演奏会が、八幡市で行われているんですよ。

佐野　八幡市には文化財など、良いものがたくさんあるわりに、あまり知られていないのが残念ですね。交通の便が悪いからでしょうか。

市長　これは吉川君のせいじゃないんですが（笑）、電車が今のように市の端ではなくまん中を通っていれば、もっと便利だったかも知れませんね。将来、八幡のまちのまん中を電車が通ればいいのになあ、という夢はありますね。

佐野　大阪や東京に行ったときに特に感じるんですが、水がおいしいですね。自然が生きているからでしょうか。

市長　自然はもちろん大事なんですが、まちはそれにプラスして都市としての機能性と産業力も必要ですね。機能性では、たとえば、買い物ができたり、音楽を聞くことができたりする場所があることが必要ですし、まちの活性化には商工業の発展も大事なことですね。農業では今年、府下最大の圃場整備が完了しますし、今年からいよいよ工業団地づくりにも取りかかります。田園と都市が調和したまちづくりをこれからも進めていきたいと考えています。

自然と環境を守るために

司会　みなさん自然には大変興味をお持ちのようですが、今、問題となっている環境破壊の問題についてはどうお考えですか。

西村　今年からゼミで、「地球規模における環境問題の社会経済学」ということを勉強しようと思っているんです。環境問題は経済の発展についてまわることで、しかたがないと思いますが、その規模をどれだけ小さくできるかが、これからの課題だと思います。

佐野　私も、まちの発展のためにはある程度の工場などが必要だと思います。でも、自然も守っていかなければならないと思いますし……、その対策となると難しいですね。

吉川　僕は車に乗るので、排気ガスが空気を汚していることはわかっているんだけど、だからといって、車に乗らないわけにはいかないし、だから、便利性と裏腹の部分があるんじゃないですか。

市長　フロンや化石燃料の使い過ぎなど、いろんな原因が考えられるんですが、この100年の間に炭酸ガスが20%増え、温度が0.5度上がったということです。このままでいくと、今後の100年間に気温が3度上がって、海面が60センチ上昇するといわれています。低いところは、海につかってしまうという状況になるんですね。地球環境の問題は、大きなテーマと思われがちですが、地域の集まりが地球だと考えると、一人ひとりが身近に行なう環境の保護が、ひいては地球を救うことになるんですね。

リサイクル★資源保護で

司会　身近なことといえば、ごみの問題も深刻ですね。

佐野　デパートなんかの商品には、たいていのものに包装がされていらに紙に包んでくれて、その上に紙やビニールの袋までくれますね。すごく便利なんだけど、よく考えたら最後はごみになっちゃうんですね。販売者は売るために、少しでもきれいにと思ってやっていることだろうけど、良く考えてみたら、資源を無駄に使っていることが多いですね。

市長　物を買うときに「余分にごたごたと包んであるものは買いません」、という意志表示をしなくちゃいけないわけですね。昨日も孫が食べているチョコレートを見ると、一つずつ紙で包んであって、それがまたトレーの中に入っていて、その上に箱があり、その箱を紙で包んで、ごていねいにリボンで結んでいるんですよ（笑）。小さなチョコレートを20個食べるのに、ものすごくたくさんのごみができましたよ（笑）。

司会　駅のごみ箱のごみの量って、多いですか。

吉川　結構多いですね。新聞はともかく、雑誌なんかも買って1時間ほどでごみ箱行きのものが多いですから。

西村　日本人は家の外へ出ると、物を捨てるということにあまり罪の意識がないみたいですからね。

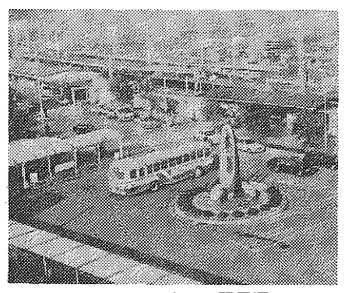
市長　去年、全国の655の市で組織している市長会に、「〝資源保護のため、余分な包み物はやめ、そして、リサイクル運動を定着させ、できるだけ資源を再利用して物を生産する〟ということを法律で義務付けるよう国に要望しよう」と、提案したんです。その結果、厚生省や通産省など各機関がそれぞれの立場で法律案を作るところまできましたが、これは、ぜひ実現させなければいけないなあと思っているんです。少し遅いんですけどね。でも、いくら遅くてもやらないよりはやるほうが良いですからね。

司会　そういうシステムに堪えられる経済も必要ですね。

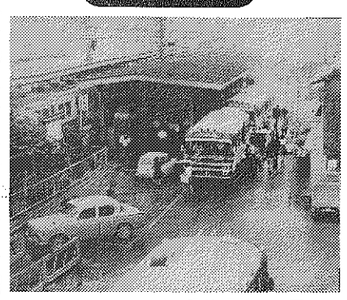
市長　コストの面ではかえって高くつくと思うんですよ。紙でも再生紙の方がそうでない上質紙より高いですからね。しかし、これはコストの問題じゃないんです。わたしたちが住んでいる地球の環境を守っていくための投資なんだから、企業も利益ばっかりを追求していてはいけないと思うんですよ。

まちは生きている

人が1日1日を大切に生き、成長していくように、まちも夢や理想を追いながら、成長をしていきます。わたしたちのまち「八幡」が20年間でどれだけ成長したか、その一部を紹介します。



1991年　大きく生まれ変った駅周辺。

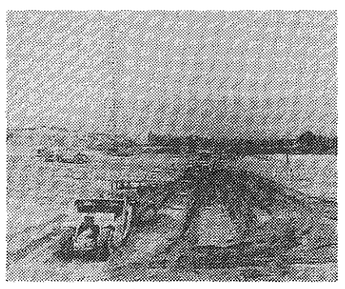


1971年　バスはケーブル乗り場前でう回。

1991年		1971年
75,879人	人口	24,232人
24,432世帯	世帯数	6,134世帯
19.5%	宅地比率	9.2%
30.9%	田・畑比率	46.4%
49.6%	山林・雑種地比率	44.4%
275億2448万円	予算（当初）	21億9140万円
14園	保育園	5園
12園	幼稚園	3園
10校	小学校	3校
4校	中学校	1校
2校	高校	1校

※一部は、1990年の数字です。

現在の男山団地。（中央センターから北東）



造成開始当初の男山。（竹園から北）

はばたけ'91

男女平等社会をめざす八幡市行動計画（案）

〔計画内容の要旨〕

世界人権宣言はその第1条に「すべての人間は生まれながらにして自由であり、尊厳と権利とについて平等である」と明記し、日本国憲法にも「基本的人権の尊重と両性の本質的平等」がうたわれています。しかし、性による役割や生き方を分ける意識が、今も男女双方に強く残っており、女性問題は男性問題と表裏一体であり、人権問題として解決を図らなければなりません。市では現在、「男女平等社会をめざす八幡市行動計画」の策定作業を進めています。計画案ができましたので、その全文を市民のみなさんにお知らせしてご意見をお聞きすることにしていますが、今回は、作業を進めている計画内容の要旨について紹介することにしました。

男女平等をめざす生涯学習の推進

真の男女平等を実現するためには、男女の役割分担意識を見直し女性への不平等な慣行を是正し、学校、社会、家庭等あらゆる場を通じて男女平等観にたった教育の推進が必要です。また、女性の多様な学習意欲に応え、男女ともにその能力や適正を生かし、絶え間ない変化に対応できるよう、いつでも、どこでも、だれでもが学習できる条件を整備することが必要です。

1．学校教育における推進

【男女平等思想の実現】

男女生徒が共に助け合い、将来明るい家庭や社会を築ける人間になるよう、すべての教育活動において男女の役割分担意識の改善と男女平等思想の実現に努める必要があります。また21世紀に向けて、家庭も社会も男女共同で支え合う意識や能力を育成し、精神的・経済的・生活的にも自立できるように、男女平等観を身につけた児童・生徒を育てる必要があります。

このため、小・中・高等学校の各教科、領域の指導、進路指導など、広く教育指導全般に男女平等教育の視点を徹底させる必要があり、また、教員の啓発、研修を拡充することが必要です。更に、生活科・家庭科での学習は、家庭生活を男女共同で支える意識や能力を育てるものなので、充実と男女共修の徹底を図る必要があります。

無意識のうちに行ってきた「男が先、女が後」という意識形成を反省し、その改善に取り組まなければなりません。

【女子の進路】

慣習的な女子教育観から、高等学校、大学への進路選択は消極的になっており、女性の主体的な生き方を阻害する大きな要因ともなっています。

自己実現に必要な人生観、勤労観、職業観等を持ちながら精神的・経済的自立が図られるよう、進路指導の一層の充実を図らなければなりません。なお、企業等の女子採用についての指導や啓発活動を、関係機関と連携を図りながら推進していきます。

【生命を尊重する性教育の推進】

性教育においては　次のような指導が必要です。

①男女の性の発達と、性の成熟について科学的に認識させる②男女の特性について理解させ、人間としての平等性を認識させる③性認識と性行動を正しくとらえさせ人間としての性をわからせる④次の世代を生み育てる責任と自覚を促し、家庭、社会の連帯や人類の過去、未来に対する認識を高める。

女子固有の母性を男女児童・生徒に正しく理解させるとともに、生命を生みだすことの尊厳と生命の大切さの理解を深め、思春期以前から両性に対する正しい知識、認識の積み上げと、相互の係わり合いについての教育を日常的に行います。また、性を商品として扱う風潮を是正し、生命の尊厳と基本的人権の尊重に基づいた性教育を行い、母性尊重の世論形成を図ることが必要です。

2．社会教育における推進

【男女平等社会をめざす啓発活動の推進】

男女意識、行動様式、社会の仕組みは少しずつ変化が見られますが、性による生き方や役割分担意識はまだ根強く残っており、女性の地位向上による男女平等社会意識の実現の障害になっています。

【同和教育の推進】

同和問題の早急な解決は重要な課題であり、国や地方公共団体の責務であるとともに国民的課題です。八幡市各社会教育関係団体では学習に努めていますが、まだ徹底されていないのが現状です。すべての市民が自らの問題として日常的に取り組むとともに、人権の尊重について婦人教育の全分野で学習を進めます。

【学習機会の充実】

学習の内容と方法の検討を進め、学習機会の充実を図るとともに、女性団体等の自発的学習活動への援助を進めます。また体育の振興を図り、京都国体で高まったスポーツへの情熱を「生涯スポーツ」に結びつけるよう関心と意識の高揚を図り、自発的にスポーツに接するための啓発奨励活動等を展開します。

【女性指導者の養成】

国、府、地方の学習機会に積極的に参加するなど施策の充実と、女性の社会教育専門職員の養成に努めます。また、女性の自己啓発と積極的な社会参加のための知識や組織運営能力、生活の技術を高める講座の実施、及び受講しやすい条件整備を図るとともに、社会教育活動を推進するための指導者の養成を進めます。

【男女平等社会をめざす市民活動】

社会教育施設では、婦人教育・家庭教育に関する情報・資料の収集及び提供、婦人教育の専門的学習に対する各種相談、指導を行うとともに、男女平等社会をめざす市民活動の拠点としての提供を図ります。

3．家庭教育における推進

【家庭における男女共同責任の確立】

家事、育児、介護等は、男女の共同責任であり、相互協力の必要性の認識の浸透を図り、男性が生活技術を習得できる機会の拡充を促進していくことが必要です。家庭での子どもの教育は父母の共同責任であることを認識し、両親が自ら真剣に生きる姿を子どもに示すとともに、PTA等を通して啓発活動を行います。

【家庭における男女の役割分担意識の見直し】

「女のくせに…」など家庭内での何気ない言葉に、女性の役割を固定化するしつけが一般化しており、これらが女性の役割分担意識や女性の能力・適正に対する偏見のもととなる社会意識を形成しています。

【家庭と学校との連帯】

教育は家庭・学校・社会の三者が一体となり進められるもので、子どもの人間形成に一層の効果をあげるためには教師と保護者との連帯が大切です。PTAの運営は母親中心の活動を見直し、父親も積極的に参加し、一層活動の活発化を図るように努めます。

あらゆる分野への男女共同参加の促進

女性が社会のあらゆる分野に参加し、男性とともに社会に貢献することは、女性の地位向上と福祉の増進につながり、男性にとっても一層活力ある生活を保障することになります。しかし、町内会やPTA、ボランティア活動など、地域活動の実質的な担い手は女性であるにもかかわらず、意志決定や運営は男性主導型で進められているという現状をふまえ、男女の協力関係によって支えられる地域社会づくりのため、啓発や条件整備に努めます。

1．政策決定の場への参加の促進

団体、企業への女性の参加はまだ周辺的部分にとどまっており、組織の政策や方針を決定する過程への参加が少ない状況です。そこで、どの分野どの過程へも男女が平等に活躍できる男女共同参加の実現を、多角的に促進していく必要があります。

【行政委員・審議会委員等への参加】

八幡市では行政委員、審議会委員等への女性登用率はまだ低く、住民のくらしや地域社会の発展にかかわる政策や方針の決定の場への女性参加は重要なことです。しかし、これらの委員は各界代表で構成される場合が多く、各分野への女性進出が強まらない限り現状を大幅に上回る登用は困難です。

人材登用に対する婦人の積極的協力を得ながら、どの行政委員、審議会委員にも女性の登用が図られることをめざしていきます。

2．地域活動への参加促進

【地域づくりと団体活動】

ボランティア活動では、生きがいの実現と社会の発展のために、男性も女性もその能力を発揮されることが望まれます。そのためには、学習と実践活動を積極的に進める必要があり、その場合、諸団体の果たす役割は大きく、その自主性を尊重しながら、団体育成とリーダーの養成が必要です。

【活動参加のための条件づくり】

各種の学習会や講座を開催し、社会教育の分野と協力提携しながら学習機会の充実に努め、諸団体の自主的な学習活動に対して講師の派遣、情報の収集・提供を行うなど、その育成と支援を強化する行政施策の推進に努めます。

3．国際交流の促進

今日の国際社会は、交通手段の急速な発展と情報量の増大によりますます交流が深まり、相互協力を推進していく方向へと動いており、国際的な視野の広さが要求されます。女性も男性も共に外国との交流を深め、その文化に学び、情報を交換し、それぞれの国民性を理解することは国際平和の推進の基盤となるものであり、その意味で国際交流と国際協力は一層促進しなければなりません。

一方、京都は国際文化観光都市として外国人観光客も多く大学や研究機関も多いため、常時多くの留学生が滞在しています。八幡市にも多くの外国人が住んでおり、国際感覚を身につけ国際都市としての風土づくりに貢献できるよういっそうの交流を進めます。

八幡市でも、茶道や華道のような文化交流の機会をつくるために簡単な英会話・中国語会話の講座を開いており、今後、ホームステイの積極的な受け入れなど、日常生活面での女性の幅広い活躍が望まれます。更に、国際交流についての啓発活動もすすめ、近畿青年洋上大学、青年海外協力隊への女性の参加、海外友好都市との親善交流も推進します。

日本国憲法（抄）

第11条【基本的人権の享有】　国民は、すべての基本的人権の享有を妨げられない。この憲法が国民に保障する基本的人権は、侵すことのできない永久の権利として、現在及び将来の国民に与えられる。

「現在（いま）」を見

■出席者（左から）　西村正男市長、西村吉弘さん、佐野直美さん、吉川和秀さん

戦争はいや 平和に徹して

司会　地球を守っていくために必要なものに、環境保護のほか、「平和」の維持がありますね。平和問題も先ほどの環境問題と同じく、地域での平和活動が、地球規模の平和を導くといえますし、八幡市が、日本が、そして世界が、と広がっていく必要がありますね。「戦争を知らない」第2世代にあたるみなさんは、「平和」について、どのような考えをお持ちですか。

西村　戦争というものは、もちろん体験はしていないし、本やテレビなどからの知識しかないけれど、その悲惨さだけはわかりますね。絶対に味わいたくない世界です。中東紛争も早く武力を持たないで平和的に解決をしてほしいと思いますね。

吉川　今、日本は豊かだと言われていますが、戦争は築き上げたものを一瞬にして滅ぼしますから怖いですよね。いかなる戦争も起きないようにして行かなければなりませんね。自由も無くなりますしね。

司会　女性の立場としては、どうですか。

佐野　私も、自衛隊の海外派遣が問題となったとき、平和憲法がある国なのに、おかしいなと思い、絶対に派遣してはいけないと考えていたんです。戦争を起こすのは一握りの人たちでしょうが、戦争になって犠牲となるのは、一般市民全部なんですから、絶対に戦争はしてはいけないと思っています。

司会　八幡市は府下で最初に、全国で49番目に「非核平和都市」を宣言したのをご存知ですか。

佐野　そんなに早くしていたのは知りませんでしたが、小学校や中学校では、平和学習が活発でしたよ。

市長　みなさんが予想外に、戦争と平和という問題について関心を持っていることがわかって、うれしく思っています。昭和12年から昭和20年までの8年間、私の8歳から16歳までが戦争の期間だったんです。年が若かったので、幸い戦争には行かずにすんだけれども、それでも空襲を受けたことが今でも心の中に残っており、戦争のひどさというものが実感としてあるわけなんです。もう2度と戦争は起こしてはいけない、強くそう思いますね。

世界には現在でも、紛争中のところがありますが、平和を望まない人っていないと思うんです。ただ、平和の求め方が間違ったりすると、争いが起こったりするんですね。

国際交流は人と人から

司会　平和な世界を築いていくためには、お互い、ほかの国の人と交流し、理解しあうことが大切なことですが、ますます国際化が進んでいく中で、みなさんは国際交流について、どうお考えですか。

佐野　日本人が外国へ行くことも大切なんですけれども、もっと、外国人を日本の社会のシステムに迎え入れることも大切だと思うんです。閉鎖的な考えが無くなれば、素直に受け入れられるんじゃないかなと思うんです。

市長　地球儀や地図で見る地球っていうのは、国境線がいっぱいかいてあるんだけど、空から見るとそんなものは存在しないんだからね。

司会　吉川君は仕事上、外国人と接する機会が多いんじゃないんですか。

吉川　ええ、よくありますよ。英語でしゃべっていて、イタリア人だったり（笑）、言葉はよくわからないけど、手振り、身振りで大体のことは伝わるみたいですよ。でも、あまり得意じゃないので、花博で外国人が多かったときは、外国人を見るとハラハラしていましたけどね（笑）。来たら自分の英語を試す機会だと思って頑張りましたけど、礼儀正しくお礼なんかいわれると、うれしいですよね。

西村　国と国との交流では、戦後だいぶ国際化が進んだと思うけど、まだまだ差別されている国もあるし、そういう国も含めて、いろんな国との交流を図ってもらいたいと思っていますね。

司会　よくいう、欧米だけじゃなくって、それ以外の国との交流も大事だということですね。日本人は外国人との接し方がへただといわれていますが、みなさんもそう感じますか。

佐野　言葉が通じないということで、まず避けてしまいますよね。ほんとはそれじゃいけないんですけど。

西村　言葉の問題は仕方がないとして、気持ちの持ち方次第じゃないでしょうか。気持ち次第で接し方も変わりますし、相手への伝わり方も変わってくると思うんですよ。

市長　人との交流があって、まちとの交流がある。そして、国同士が仲良くなっていくんですよ。

佐野　八幡市はエジソンが生まれたアメリカのマイラン村と交流をしていますね。

市長　エジソンが八幡の竹を使って電球の実用化に成功したことが縁で、正式に友好都市の提携を結んでいるんです。今、そこまではないけれども、交流を進めているところが2つあります。ひとつは中国の陝西省の宝鶏市で、ここは非常に古い歴史を持った市で、三国志の舞台になったところです。周の時代の都で青銅器がたくさん発掘されていて、今では工業都市として発展しているまちです。

もうひとつはドイツのハム市で、ここは音楽が非常に盛んなまちなんですが、音楽だけじゃなく、文化やスポーツなど、広い分野にわたった交流を進めていこうと準備を進めています。

今年は未年

平成3年は未（ひつじ）年です。羊は「おとなしい」「柔順」「群れになる」などのイメージがありますが、なによりもわたしたちが実感できるのは、ウールのセーターや皮製品の肌ざわりと温かさです。

羊は、紀元前8千年ごろに家畜化されたといわれています。馬が家畜化されたのが、紀元前3千～4千年ごろですから、羊と人間の付き合いは、かなり長いことになります。

日本には、羊にまつわることわざが、「羊の皮を着た狼」「羊頭狗肉」くらいしかなかったようです。そのため、欧米のように、ことわざが多くないのだろうといわれています。

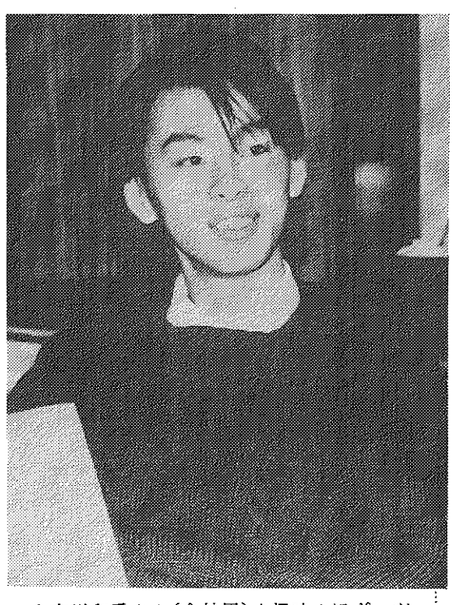
さて、「一年の計は元旦にあり」といいます。今年の目標を決め、〝迷える子羊〟にならぬよう、スタートを切りたいものです。

古代皇の時代に、百済（くだら）から2頭の羊が贈られたと、日本書紀に記されています。しかし、羊は乾燥した風土が好きなので、日本の気候にあわなかったのでしょう。あまり繁殖しなかったようです。そのため、欧米のように

◆西村吉弘さん（学生）★趣味：バレーボール★夢：オーストラリア旅行

世界をひとつの輪に 21世紀へふくらむ夢

働くなかでゆとりをもって



◆吉川和秀さん（会社員）★趣味：スポーツ車・バイク★夢：幸せな家庭をつくること

司会　人やまちや国とのつきあいや交流を進めていくためには、また、文化的な生活を送っていくには、これからは、いろんな面での「ゆとり」が必要だと思います。そこで「ゆとり」について少し話を聞かせてください。吉川君は、休みのときはどのように過ごしていますか。

吉川　会社は、休日出勤もありますが、完全週休2日制なので、自由な時間はわりとあるほうなんです。

休みの日は自分の好きなことをやっています。木津川をジョギングしたり、会社のサッカーチームで汗を流したり、冬にはスキー、夏にはジェットスキーなんかもしますよ。じっとしているのが嫌いなんです（笑）。

司会　週休2日制も定着しつつありますが、問題は、その時間をいかに利用するかということですね。吉川君は車を持っているんですか。

吉川　持っています。親からお金を借りて買ったんですが、もう払い終わりました。その分、苦しい毎日を過ごしましたけど（笑）。

市長　日本は、トップレベルの金持ち国だといわれていますが、生活の水準がそんなに高いとは感じられませんね。いろいろと原因がありますが、「ゆとり」のないことが要因の一つだといわれています。物質的な「ゆとり」はあっても、精神的な「ゆとり」に欠けているといわれていますね。

司会　学生の西村君にとって、ゆとりとは。

西村　僕は学生ですから、確実に日曜日は休みですし、時間的には、ゆとりがあるといえばありますよね。でも、バレーボールのクラブをやっていますので、春と秋のリーグ戦のときは、日曜日は試合がぎっしりで、月曜日から土曜日までは学校とクラブで詰まっていて、このときばかりはゆとりがありません。与えられた時間は、わりと有意義に過ごしている方だと思うんですが。

佐野　私も家にじっとしているのが嫌いなので、時間に余裕があるときは、友達に会いに行ったり、遊びに行ったりしています。適度に体を休めて、適度に外に出て、というようにしています。クラブでは、バスケットのサークルで月に一度集まっています。いつまでも体は動かしたいなあと思っているんです。体を動かさないと、自分がすごく年をとってしまったように感じてしまうから（笑）。

市長　だけど、やはりお茶とかお花とかの習いごともやっているんでしょ。

佐野　いいえ、やっていません（笑）。お料理はしたいなとは思っているんですが。

司会　金融関係へ就職されるそうですが、かなり時間的にも中身的にも忙しい世界だと思うんですが、どういう社会人生活を希望されてますか。

佐野　先輩とか親戚が、みんな金融関係に行ってるので、すごく忙しいことは知っているんです。土、日は休みなんですが、連日休暇はなかなか取れそうになくて、新入社員の間は上司に気をつかって、取りにくいとかいうこともよく聞きますし。就職したらゆとりのある生活ができるかどうか、ちょっと心配なんですけど、心には、つねに「ゆとり」をもち続けていたいですね。

一生が学習 さあ21世紀

市長　日本人の誇れることに、勤勉性があると思うんですが、私はこれは大事なことだと思うんですよ。働くことが人間の社会生活の基本なんですから。しかし、働き過ぎはだめで、「ゆとり」の部分がなくてね。

「ゆとり」もそうなんだけど、21世紀をめざしたこれからの社会には、部落差別、人種差別、男女の差別、障害者への差別など、あらゆる差別をなくしていくことも重要な課題ですね。

もうひとつみなさんに関わる大きな問題としては、高齢化社会の問題もありますね。高齢者がどんどん増えてきて、みなさんのお父さんやお母さんが高齢者になられるときは、5人に1人くらいが高齢者だといわれていますが、そんな時代を君たちが支えていかなければならないわけですからね。

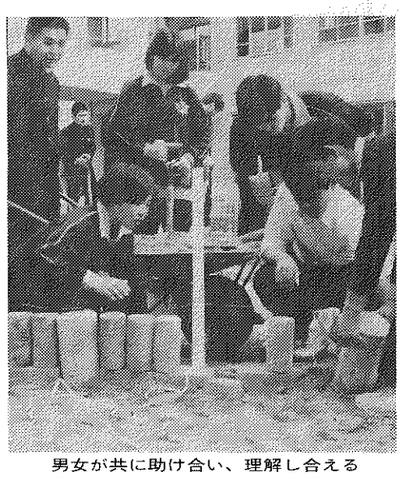
それからもうひとつは、吉川君のように、既に社会に出て働いている人もいるし、佐野さんや西村君のように、これから社会に出ていく人もいるんだけど、人間は一生、いくつになっても常に勉強だ、ということです。年代に応じた勉強というものが、世の中には沢山あるんですよね。いろんなものを知ろうということについては、ぜひ「がめつく」やってもらいたい。今まで知らない世界でも、勉強さえすれば新しい世界がいくらでも生まれてくるものだし、折角の一生なんだから、いろんなところへ手を延ばして、豊かな一生を過ごしてほしいと思っています。

司会　八幡のまちのこと、自然環境のこと、平和、国際交流、さらに21世紀に向かっての展望など、各面にわたってのご意見ありがとうございました。今年もみなさんにとって、よい年でありますように――、長時間どうもありがとうございました。

（この座談会の司会、編集は秘書広報課が行ないました。）

母性の保護と健康の維持増進

女性は次の世代を生み出す重要な社会的役割を果たしており、母性の社会的重要性の認識を高め、母性保護の充実を図っていくことが必要です。また、あらゆる年代の男女がいかにして健康の維持増進を図るかが重要な課題です。



男女が共に助け合い、理解し合える環境をつくりあげることが必要です

1．母性保護と母子保健の充実

【母と子の健康】

安心して結婚し出産できる状況を作るための男性の意識改革や、男性の育児休業保障制度の確立が望まれます。母子保健対策を一層充実強化し、きめ細かな施策の推進が必要です。そのためには、妊産婦・乳幼児相談等及び母親学級の開催、保健衛生教育の充実強化、妊産婦健康審査事業を一層充実し受診率の向上を図ります。

乳幼児に対しては、出生児家庭訪問指導、乳幼児健康診断、健康相談、先天性代謝異常検査、発達相談、母子栄養強化事業等の充実を図ります。

歯科衛生対策として、歯科医師の協力により、幼児の歯科検診、歯のひろば等の衛生教育を推進していきます。

【女性の健康、成老人保健の推進】

女性の健康水準は著しく向上したものの、反面子宮がんや乳がん等女性特有の疾患が増加しており早期発見・治療が最も重要です。子宮がん検診は一層積極的に推進を図ります。また乳がん検診は、八幡市医師会の協力により集団検診を実施していますが、医療機関との連携により早期再診・早期治療が行われるよう努めます。

2．健康の維持増進

【啓発普及活動の展開】

出産前後の休業は普及しているものの、育児休業や保護策、妊娠中・出産後の健康管理の配慮が不十分であったり、休業等による職務内容や昇進等の不平等な取り扱いが無いとは言えず、こうした就業環境の整備が必要です。

母性の保護と健康維持増進の啓発活動は、社会福祉協議会・八幡地区食生活改善推進員連絡協議会・女性団体・老人クラブ等と連携をとりながら、有効な啓発普及活動を展開します。また一定年齢者への個人通知や、がん・高血圧・糖尿・肥満等の問題などの講習会・研修会・健康教室等のはたらきかけを推進します。

【健康づくりの推進】

家庭の主婦や自営業等に従事する女性の健康診断等の受診率は必ずしも高くなく、保健指導の強化が必要です。保健事業を積極的に進め、乳児から老人までのきめ細かな事業を推進するため、専門職員の確保に努めます。

【人口の高齢化の進行】

全ての高齢者が心身ともに健やかに過ごせるよう、福祉の一層の充実を図ることが必要で、今後とも、高齢者は引き続き社会の進展に寄与していく構成員であるとの位置づけを堅持していくことが重要です。

高齢者の定期的な健康診断や保健意識普及のための老人教養講座の開催等、健康管理を充実することに務めます。また、高齢者の豊かな経験と能力を生かし、地域活動、ボランティア活動、学習会、スポーツ活動、シルバー人材センター、趣味のクラブ活動等への参加機会の拡大を図ります。

【老後の健康と生きがい】

高齢者が安定した収入を得ることも重要で、就労を希望する高齢者には、シルバー人材センターを活用し労働能力が発揮できるよう推進していきます。一方で女性の年金制度の充実を要望していくとともに、家庭にいる女性、家業に従事している女性の国民年金未加入者に対して、広報活動を活発に行い、年金加入の推進を図ります。

【老後の生活設計】

ゆとりある老後を送るには健康と就労が必要で、就労を希望する高齢者にその斡旋・紹介を推進する必要があります。更に経済的自立に欠ける女性が多い現状では、年金制度等社会保障制度の充実が強く望まれます。また生活の知恵や子育て等の豊かな人生経験を生かし若い世代と共に自立した生きがいある生活設計が望まれます。

家庭奉仕員や介護人派遣制度を充実するとともに、家庭介護が一時的に困難となった高齢者の特別養護老人ホームでの短期保護などの制度を推進していきます。

【在宅福祉と高齢者のための施設の充実】

寝たきり老人や一人暮らし老人等の社会的弱者に対する在宅福祉の充実は、地域における相互援助とともに今後一層必要となってきます。また寝たきり老人の介護はその多くを女性が担っており、精神的・肉体的負担の軽減が必要です。そのため寝たきり老人等の施設の充実に努めていきます。高齢者の社会参加と生きがいのある老後生活の拠点として、老人憩いの家八寿園を設置し高齢者の利用に供しています。また居宅で擁護を受けるのが困難な高齢者のための施設として特別養護老人ホーム、養護老人ホーム等の必要性は今後ますます増大していきます。

家庭生活の安定と福祉の増進

今日の複雑な社会のもとで家庭の果たす役割は一層重要になっており、家族一人ひとりが尊重され共同して生活するうえで、性による固定的な役割分担意識を改めていく必要があります。また、平均寿命の伸長と高齢化の急速な進展により、老後の生活安定や生きがい対策が求められています。

1．社会を支える家庭の役割

【家庭における男女の相互協力】

家事や育児は男女が責任を共同で負担し、その苦業を共にすべきものです。女性のみに負担を課せるのではなく、男女が相互協力のもとに家庭を築き、分担していけるよう啓発活動を推進します。また、家庭教育における父親の重要性についての、啓発資料の作成や家庭教育、学級への参加を促進します。

【家事労働の位置づけ】

男性が家事労働を正しく評価することが家庭生活を支える根本で、そこに男女共同参加が生まれると考えられます。女性が家事、育児、病人や老人介護の責任を一方的に負うのではなく、男女の役割の固定化を見直し、女性も自己の生き方を主体的に選択設計できるよう、相談や教育の機能を高め啓発活動を充実していきます。

2．母子家庭等の福祉の充実

【母子家庭の生活状況】

母子家庭が安定した自立生活を営むためには就労対策が必要で、生活援護対策としては、国や府制度のほか市の福祉医療費支給制度の普及徹底を図ります。また、母子家庭の児童及び母親に対する医療保険自己負担の公費負担や、母子家庭介護人の派遣等の取り組みを積極的に進めます。

【母子家庭等の福祉】

社会経済構造の変動に伴う核家族化現象、価値観の変化等による生別若年母子の増加や、発生原因の多様化に伴い、母子相談も複雑・困難なケースが増加していますが、このような状況に的確に対処するために、母子相談員・母子福祉推進員・社会福祉協議会及び民生児童委員などが有機的に連携を図り、その充実に努めます。

3．高齢化社会への対応

就業状況の改善整備

就業の場の男女平等は前進しつつありますが、賃金格差をはじめ募集、採用、配置、昇進など様々な面で、制度上・事実上の男女格差を残す事業所は少なくありません。また女性の職業意識の確立、能力の形成が十分なされにくく、家庭責任と仕事の両立に苦悩するといった現状があります。

1．就業における男女平等の促進

【雇用機会と就業分野】

技能や専門的意識の習得の場を提供し、女性の能力と希望の多様化に応じた職場を確保することとともに、就業分野を拡大することが必要で、雇用の機会と待遇の男女平等を確立するため阻害要因の除去など必要な施策を推進します。また全業種育児休業法の制定の早期実現も必要で、使用者に対し採用、職場配置、研修訓練、昇進、昇格等に、男性と同等の機会を与えるとともに、女子向き職種という固定観念にとらわれず、能力・個性に応じた専門・技術的職業、その他幅広い職業分野へ進出するよう啓発します。また管理職の昇進等を促進するとともに、女性にも積極的に応ずるよう働きかけます。

【雇用における男女格差】

女子に昇進機会のない企業や、女子に教育訓練を受けさせない企業、男女別定年制年齢を定めている企業があり、雇用における男女の昇進、教育、定年制の格差を改善する必要があります。

農林業経営の質的向上を図るため、研修等の機会をより保障し、都市近郊農業における健康管理等の施策の推進を図ります。商工業に従事する女性に関して、職業、健康、その他生活に必要な知識、技能の向上、家事負担の軽減などに必要な施策を推進します。

【自営業などにおける女性就業形態】

農業の兼業化が進み女性の果たす役割が多くなっている一方で、家庭内での役割もより重要視されるなど、その責任が重くなっています。商工業に従事している女性については仕事と家庭を両立させなければならず、生活や労働時間も不規則であることから、健康管理面において問題を残しているのが現状で、その改善に努めます。

2．働く女性の母性保護と条件整備

【働く女性と母性保護】

職場環境の不備による退職や結婚・出産による退職等の制度・慣習をなくし、産前・産後休業、深夜労働の制度、危険有害業務の禁止など、母性保護を目的とする措置、職業病の予防対策、健康診断の措置等が守られ、女性が生き生きと職業生活を送れるように職場の整備を行う必要があります。

労働基準法に定める母性保護に関する規定、母子保健法に基づく保健指導、健康審査の受診の規定及び労働安全衛生法による職業病の予防対策・健康診断等の規定が守られるよう、啓発と教育に努めます。また「国内行動計画」後期重点目標にもある勤労婦人福祉法に基づく育児休業制度の普及・啓発に努めます。なお、男女共に労働時間の短縮を図ることが望ましく、週休2日制等の実施の一層の推進を図ります。

【働く女性と育児】

働く女性の激増と労働形態の多様化に対応し、職場の女性の地位向上を目指して、育児のための条件整備を図ることが必要です。

保育所は家庭で保育できない児童を保護者に代わって保育し、児童の心身の健全な発達を図ることを目的とする施設で、女性の就労を促進する側面も持っています。また、共働き等で留守家庭となる小学校低・中学年児童の健全育成を充実するため学童保育事業を実施していますが、これが制度化されるよう働きかけを強めます。

工専地域の開発を促進

事業着手に負担金を計上

12月定例会

平成2年八幡市議会第4回定例会（12月定例会）は、12月11日から25日まで15日間の日程で開催され、補正予算案や条例改正案など市長提案の議案を審議、すべて原案どおり可決されました。そのほか、人事案件に同意を得、平成元年度一般・特別会計決算が認定されました。

第4回定例会に提案したのは補正予算案6件のほか、条例改正案2件、その他1件、人事案件1件の計10議案でした。

一般会計の補正額は4億2578万1千円で、予算総額は191億7098万2千円となりました。補正の主な内容は次のとおりです。

【登録ホームヘルパーの活動費を増額】在宅の寝たきり老人などの介護制度を充実させるため、昨年7月からホームヘルプセンターを開設していますが、介護を必要とする対象者は昨年11月現在で21人にものぼり、15人の登録ホームヘルパーがフル活躍するなど、府内でも模範的なヘルプセンターになっています。そのため、登録ホームヘルパーの活動費と研修費を補正しました。

【老人短期保護の助成費を増額】特別養護老人ホームでの短期保護施設利用助成費の増額分を補正しました。

【上津屋地区の工業専用地域の開発を促進】工業団地づくりのために、上津屋地区の24ヘクタールを対象に上津屋土地区画整理事業を実施しますが、その中の幹線道路となる八幡田辺線の新設に向けて、事業費負担金を補正しました。今回が最初の事業費ですが、この上津屋土地区画整理事業は総事業費が約23億円ほど必要で、平成8年度に完了し、そのあと企業誘致を開始する予定です。

【緑化推進費を増額】市内のみどりを増やすため、補植や肥培管理費などを補正しました。

【児童遊園の遊具を更新】児童遊園の遊具や公園のフェンスを更新するための費用を補正しました。

【市営南ヶ丘浴場のボイラーを更新】永年使用してきた南ヶ丘浴場のボイラーが老朽化したため更新することにしており、同時に、配管などの改修も含めてその費用を補正しました。

【梨園の吊り棚や防鳥ネットの設置に助成】市特産の梨の栽培を促進するため、梨園の吊り棚やガラスの被害から守るための防鳥ネットの設置の助成費用を補正しました。

【安居橋と全昌寺橋の架替事業費を増額】八幡八景のひとつである放生川にかかる安居橋を平成2・3年度に架け替えしますが、それに伴い護岸整備のための実施設計費を補正しました。また、その下流で八幡市駅近くにかかる全昌寺橋も平成3年度に架け替えしますが、この橋の設計変更による事業費増額分も補正しました。

【市道維持補修費を補正】市道や下水路などの維持補修費を補正しました。

【市内小・中学校に図書と書架を購入】市内各小学校と中学校に文庫を設置するため、図書と書架の購入費用を補正しました。

人事

人権擁護委員候補に吉田栄氏を推薦

12月14日で任期満了に伴う人権擁護委員の安田茂世氏の後任に、吉田栄氏（61）＝八幡神原＝を委員候補者として法務大臣に推薦することに議会の同意を得ました。

利用の市民に好評

金曜夜間窓口がスタート

市では、昨年11月9日から毎週金曜日の午後5時から8時までの3時間、金曜夜間窓口を新設して市民のみなさんの便宜を図っています。市民課の職員と企画課の電算担当職員、管理職の合わせて5人が執務しており、取り扱っている業務は以前の日曜窓口と同様、住民票の写しや印鑑登録証明書の発行などと各種証明書類の発行です。

初日には、住民票写しの交付18件、印鑑登録証明書の交付11件、戸籍謄・抄本の交付4件など全部で38件の利用がありました。最初の利用者は34歳のサラリーマン女性で、「急に住民票が必要になったので来ましたが、金曜夜間窓口があったので助かりました」とうれしい答えをいただきました。

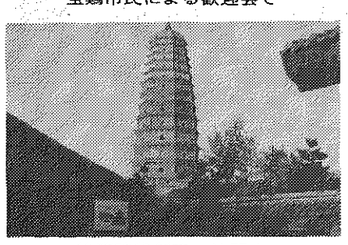
また、11月16日は33件、30日は33件、12月7日は38件、14日は33件、21日は34件と、初日からの6日間で合計189件の利用があり、1日平均で約32件にものぼりました。これは以前に行っていた日曜窓口の利用件数より多くなっています。

利用されているのはサラリーマンが中心ですが、なかには昼間に来庁できなかった主婦などの利用もあり、なかなか好評です。

友好訪中団　宝鶏市で熱烈歓迎

友好を深めて帰国

宝鶏市民による歓迎会で


後漢時代創建の法門寺

市と市日中友好協会合同の中国友好訪問団（家村定男団長、17人）が昨年11月、陝西省宝鶏市などを訪れ、友好を深めて帰国しました。

訪問団は市議や一般市民、市職員からなり、宝鶏市の人民政府や同市議会と、今後の両市の交流について話しあった家村団長は、「宝鶏市が八幡市との友好を願っていることを肌で感じた」と話していました。今回の訪問で宝鶏市から、友好校の調印、研修生の受け入れ、市長の訪問などの要望がありました。

宝鶏市との交流は、昭和61年に市日中友好協会が結成されたのを記念して、同協会が京都府の友好提携省である陝西省の人民政府を訪問したのがきっかけで、昨年5月に宝鶏市の対外友好協会会長らが八幡市を訪れたことで、さらに友好が深まり、今回の訪問となったものです。

歳末たすけあい運動

410万円の浄財あつまる

共同募金会八幡支会と市社会福祉協議会が昨年の12月1日から10日まで、市民のみなさんの理解と協力を得て実施した、「歳末たすけあい運動」の募金袋の開封が、12月14日福祉会館で行われ、集計の結果、1万2452袋から409万7977円の浄財が生まれました。同協議会では、これらの善意のお金を長期療養患者、老人施設入所者などの人たちに役立ててもらうよう配分しました。ご協力ありがとうございました。

寄付

◇八幡市老人クラブ連合会（兵頭正明会長）から12月4日、会員らが買物のおつりなどを蓄えた「愛の貯金箱」の浄財10万円を福祉基金に寄付していただきました。ありがとうございました。

◇橋本北浄土ヶ原にお住まいの日浦利明さんから12月10日、亡母が生前、世話になったお礼にと、福祉基金に10万円寄付していただきました。ありがとうございました。

◇高齢者福祉に役立ててください――と、八幡三反長におお住まいの吉田幸義さんから12月25日、福祉基金に1千万円を寄付していただきました。これは、亡母が生前、福祉に世話になったお礼にと、寄付されたものです。ありがとうございます。

◇八幡槌松にお住まいの大平豊夫さんから12月25日、障害者福祉に役立てると、国勢調査の調査員報酬の方9400円を寄付していただきました。ありがとうございました。

火災・救急統計

	2年1月～11月累計(11月のみ)		元年1月～11月累計
救急件数	1405件	（129件）	1334件
搬送人員	1491人	（133人）	1424人
火災件数	14件	（1件）	18件

広報伝言板

八幡市役所　八幡園内75番地　☎983―1111（代表）

催し

福祉大講演会に参加者募集

老後の幸せを考える

市婦人会と府教委では、福祉講演会を開催します。

▼日時　1月26日（土）午後1時30分～3時
▼場所　文化センター3階第3会議室
▼講師　滝田和子氏
▼テーマ　「安心してボケなはれ」
▼参加　当日直接会場へ（費用は無料）
◆問い合わせ　市婦人会長＝田野（☎9883・0485）

障害児・者問題を考えよう

実践報告と座談会を開催

市適正就学推進委員会では「障害児者問題を考える会」を開催します。

▼日時　1月19日（土）午後1時30分～4時
▼場所　市役所4階会議室
▼内容　実践報告と座談会、夏の地域学校ビデオ公開など
▼参加　当日直接会場へ
◆問い合わせ　市適就事務局（☎市役所内線320）まで

歌を通じて和やかに楽しく

新年市民短歌会を開催

文振短歌部会では、「新年市民短歌会」を開催します。会員以外の人もふるってご参加ください。

▼日時　1月17日（木）午後1時から
▼場所　文化センター3階
▼会費　千円（昼食代）
◆申込み・問い合わせ　大槻延子（八幡岸本5☎981・1894）まで

独居老人へ愛のメッセージ

ちぎり絵はがき作り

市婦人会福祉部では、独居老人へ送るちぎり絵はがきを作る会を開催します。

▼日時　1月28日（月）午前10時～午後3時
▼場所　山柴公民館
▼参加　市内在住在勤
▼費用　無料
▼持ちもの　目打ち、はさみ
◆申込み・問い合わせ　竹田（☎9883・3239）まで

余った毛糸で靴下カバーを

講習会に参加者を募集

文振手芸部会では、手持ちの毛糸や古いセーターのほどいた糸を利用して靴下カバーを作る講習会を開きます。

▼日時　1月26日（土）午前9時30分～11時30分
▼場所　男山公民館
▼用意する物　8号針4本、とじ針、かぎ針（5～7号）、毛糸（並太程度で約60～70㌘）
▼参加費　無料
◆申込み・問い合わせ　小林（☎981・0972）まで

募集

生きがいと安定した生活を

報酬は仕事量に応じて

シルバー人材センターでは、会員を募集しています。お気軽にお問い合せください。

▼対象　市内在住60歳以上
▼職種　屋内外の各種軽作業、各種清掃、除草、家事手伝い、植木のせん定、襖・障子の張替えなど
◆問い合わせシルバー人材センター（☎9883・0822）

留学生の受け入れ家庭募集

外国人留学生の民泊家庭

関西外国語大学では、2月に来学する外国人留学生の受け入れ家庭をさがしています。期間は、2月初旬から5月末までの約4ヵ月間です。受け入れ家庭は、お礼として月額5万6千円（2月・3月は暖房費としてさらに6千円）が支払われます。

外国人だからといって特別の配慮は全くいりませんし、英語が話せなくても、辞書を片手に十分意志は通じます。国際理解の意味でご協力をお願いいたします。

◆問い合わせ　詳しくは、同大学国際交流課（☎0720・51・6751）まで

その他

老人介護者に激励金を支給

申請は2月16日まで

府では、寝たきりのお年寄りの介護者に激励金を支給しています。対象者は、2月1日（基準日）において次のいずれにも該当する人です。

▼対象者　①配偶者または3親等内の親族で、寝たきりの生活が6カ月以上続いている満65歳以上のお年寄りを同居または常時通って直接介護されている人②介護者（申請者）もお年寄りも6カ月以上京都府内に在住のこと③基準日において、お年寄りが社会福祉施設に入所していない、また病院等に継続して3カ月を超えて入院していないこと④平成2年度に同激励金の支給を受けていないこと
▼申請　2月1日から15日までに市援護課まで（申請用紙は援護課にあります）
◆問い合わせ　福祉部援護課（☎市役所内線229）まで

SKIING ファミリースキーツアー

八幡市では、ファミリースキーツアーを開催します。　★日時　2月3日（日）　★場所　滋賀県マキノスキー場　★費用　1人3千円（交通費、保険料など・貸スキーは別料金が必要となります）　★対象　市内在住在勤　★定員　180人（定員を超えれば抽選）　★集合　①午前5時50分、男山中央センターバス停②午前6時、市役所前　★申込期限　1月16日（水）　★応募方法・問い合わせ　往復はがきに代表者の氏名・住所・電話番号・グループの人数を明記し、市教委社会教育課（野尻正畑12 市民体育館内 ☎983―5111）まで

ご存知ですか　利子補給制度

申請は1月31日までに

市では、自らの居住する住宅の新築、増築もしくは購入にあてるために市の指定する市内金融機関から資金の長期借入者に対し、一定の利子補給をします。

▼申請資格　①借入時、市内に2年以上居住し引き続き市内に居住される人②市税を滞納していないこと③約定元利償還金を完済していること④住宅金融公庫、年金福祉事業等政府経営資金または、地方公共団体からの融資を受けていないもの⑤建築基準法等法令に違反していないなど
▼申請期限　1月31日まで
◆問い合わせ　詳しくは、建設部建設管理課（☎市役所内線3333）まで

20歳になったら「国民年金」

加入義務は20歳から

20歳になると成人として多くの権利と義務が生まれます。成人の義務として国民年金に加入し、保険料を納め、老後の生活設計をたてましょう。（昼間の学生は任意加入となりますが、4月1日より強制加入となります）

国民年金は20歳から60歳までの40年間加入し、65歳からの老齢基礎年金を受給する制度で、その間に就職したり、職場が変わったときでも手続きにより加入期間が通算されます。

◆問い合わせ　市民部国保年金課（☎市役所内線236）

ご協力をお願いします

平成2年　工業統計調査

八幡市企画部企画課 ☎983・1111

入学金と修学金を貸付

高校・大学進学者へ

市では経済的な理由により高校・大学（短大含む）への進学を断念されることのないよう奨学金貸付制度を設け、申請に基づき審査を行い貸付を決定しています。

■資格　市内に世帯を有し、今春高校・大学（短大含む）に進学する学生（高校生については在校生も可）　■申請期間　1月14日（月）～1月25日（金）　■必要書類　申請書・所得証明書（様式は学校教育課にあります）・住民票謄本
◆問い合わせ　市教委学校教育課（市役所内線319）

〈貸付金額及び予定人数〉

区分		金額	人数
入学金	私立高校	90,000円	10人
	公立大学	300,000	3
	私立大学	600,000	15
修学金	公立高校	月額6,000	3
	私立高校	月額25,000	12

お届けします

小学校・中学校の新入学者へ

就学通知書

市教育委員会では、4月に小・中学校へ新入学する人へ次のとおり就学通知書をお届けします。

▽小学校新1年生（昭和59年4月2日～昭和60年4月1日に生まれた人）：保護者に就学通知書を、1月20日頃までにお届けします。届きましたら、速やかに入学届に必要事項を記入し、小学校へ提出してください。

▽中学校新1年生（昭和53年4月2日～昭和54年4月1日に生まれた人）：①現在、市立の各小学校6年に在学中の児童には、学校から本人を通して就学通知書をお届けします。届きましたら、速やかに入学届に必要事項を記入し、小学校へ提出してください。②市内の小学校に在学していない人は、1月20日頃までに就学通知書をお届けしますので、届きましたら、速やかに入学届に必要事項を記入し、市内の中学校へ提出してください。

※就学通知書が1月20日を過ぎても届かない場合は、学校教育課へ連絡してください。

国立及び私立の小・中学校に入学を予定している人も、市内の学校に入学届を提出してください。その後、予定している学校の入学許可がされた時に、その学校の入学許可書を持参のうえ、市教委学校教育課で、入学変更の手続きを行ってください。

◆問い合わせ　教育委員会学校教育課（☎9883・1111内線319）

やわたの文芸

短歌

紺碧の空に輝やく十三夜茶にうかされしずもる夜を　戸津北小路　吉川しず子
新玉の東雲の空明け初めて雅の杜にひびく鼓の音　橋本栗ケ谷　小川　米子
断ちがたき人にしあれは面影の霧にも幽かに浮かべと願う　八幡園内　船橋　好子
窓に佇ち四季の移ろい眺むればディ・サービス八幡福祿谷　山本恵美子

川柳

髪染めて十指の余生広く生きしみじみと年輪思う雑煮椀　橋本栗ケ谷　小川　常夏
八幡北浦　土谷　治男

俳句

師走日に散り山茶花の七つ八つ　川口堀ノ内　西川智慧子
幾千代の寿ぐ明けの春雀く　下奈良二階堂　蓼田　清子
よき年になれや窓辺の福寿草　男山長沢　富永　健郎
山茶花を掃いて今年の終りけり　野尻土井ノ内　渋谷　文枝
年迎えこの朝焼けにこころぼせ　八幡三本橋　河野　淑子
東尋坊岩場のりこえ白波のおどりあがりてたちまち崩る　八幡岸本　大槻　延子
晴着着て親も着かざる七五三八幡宮へ参る足軽く　八幡大谷　森口　あい
掌を合わす人あり九年の台風の慰霊碑に銀杏散りかかりけり　八幡小松　宍戸　光夫
集い来し友友のほゝ笑みは学びし日々に変る事なく　橋本堂ケ原　岡本かね子

【募集】短歌、俳句、川柳の作品を募集。作品には住所、氏名、電話番号を必ず記入し、〒304八幡市八幡園内75 八幡市企画部秘書広報課作品係へはがきで。※締切りは毎月15日必着。作品は1人1点に願います。

市長の手帳から

二〇世紀をしめくくる年代―一九九〇年代の幕明けとして、抱負と期待のなかで迎えたこの年も、あと数日をのこすのみとなった。

店頭の雑踏はいよいよこれからだが、それにしてもこの歳末、気にかかることのひとつは、十一月から東京は大田市場に進出した八幡市新特産の九条ネギのゆくえである。

敵は白ネギばかりと思っていたところ、はるばると九州は博多から、小ぶりが魅力の青ネギが、空を飛んで東京に乗りこんできている有様を眼のあたりにして、改めてこの世界での競争のきびしさを実感した次第であった。

ふるさとのネギの香をかぐ東京は京急雑色駅前の朝首都にきて八幡のネギと見目きそう博多のネギは小ぶりなりけり

百年を生きぬきしひとは小さくて声をはりあげ脊を伸ばし立つ

戦うを至上としたるころありき〝わらび座〟に見るわが少年のころ

音階も歌詞も確かなり眼の見えぬきみ朗々と歌う〝昴（すばる）〟よ

大いなる地球儀賞わむ朝な夕な宇宙よりみる心地にて見む

この年になし得ざりしこと十ばかり新しき手帳にしかと書き留む

師走に入って早々の四日は内里別所の長村トミさんの満百歳の誕生日。長村さんの〝大寿〟達成によって、世紀を超えた生命が市内で複数となったのは誠にうれしい限りだが、十日に文化センターであった〝わらび座〟の二月三月物語では、何百万、何千万の生命を殺したあの戦争の時代をふたたび眼前にして、改めて人間とは何かを真剣に考えさせられたのである。

中旬から下旬にかけては、定例議会の緊張がつづくなかで、障害者や母子家庭のみなさんのクリスマス会や忘年会に招かれることが重なったが、逆境を乗り越えて明るく生きている人々の姿に思わず息をのむばかりの感動を覚えることが再三であった。そしてテレビの威力によって、秋山さんといっしょに宇宙からたっぷりと地球をみることができたのも、今年の師走の大きな感動のひとこまだった。

〝えと〟さながらに、〝奔馬〟のように過ぎた一年。できたことも数多いが、できなかったことや、市長会へ提起した〝リサイクル法制化〟のように、歳末になって動き出したが、いよいよこれからという課題もある。〝来年こそは!〟と、新しい手帳に書きつけてみて、ようやく年が越せる思いがするのである。

八幡市長　西村正男

おめでとうございます

平成2年11月届出分

出生

（敬称略）

住所	赤ちゃん	保護者
男山香呂	高屋　美帆	進路
内里巽ノ口	上津　正太	茂之利
男山笹谷	中村　瑛	和人
八幡科手	森　ちひろ	ひかる
八幡隅田口	阿部　圭祐	龍夫
八幡北浦	山口　詩織	哲史
男山八望	尾崎　美琴	稔
八幡小松	山本　賢	隆司
戸津東代	金谷　亜美	泰宏
戸津東代	金谷　亜紀	泰宏
橋本東山本	高山　祐季	政夫
男山八望	三宅　正倫	正己
橋本狩尾	藤本　啓介	信夫
男山香呂	柏原沙千未	直貴
八幡科手	板狩　知寛	収治
戸津奥谷	廣本　篤司	和司
岩田竹綱	中野　蓉子	忠三
男山笹谷	長谷川大祐	慎二
男山金振	日比　卓真	進
男山弓岡	原田恵里奈	芳宏
橋本糸ケ上	川本　悠貴	裕行
男山松里	仁波　良平	政和
川口浜	長尾　昌浩	昌尚
男山香呂	入江　大悟	学
川口西扇	西村　友行	謙
八幡吉野垣内	伴　望菜美	進一
男山松里	月田　健太	和博
男山泉	沖　美紗子	寛
八幡垣内山	山中　小雪	裕次
内里東ノ口	長村　冴春	満
八幡山路	小原　功嗣	淳男
男山雄徳	西川　友規	嘉一
八幡馬場	高垣　美希	宣高
上奈良城垣内	市川　光保	孝行
男山長沢	森山　正隆	正樹
男山美桜	峰重佑季子	昌玄
男山香呂	片山　翔太	幸治
八幡垣内山	家村　志保	尚宏
男山弓岡	杉本　直宏	浩司
男山香呂	瀬戸口正志	淳賢
男山石城	越智　啓介	真吾
男山香呂	竹内　俊哉	克利
美濃山西ノ口	片岡　愛理	晃
男山石城	正木　勇祐	芳明
美濃山幸水	神社　宏行	繁次
八幡科手	上田　航	信介
男山弓岡	山本由布子	峰雄
男山松里	吉田　圭佑	雅弘
男山香呂	河田奈穂美	義博
男山笹谷	中島裕香子	義郎
男山香呂	佐藤　京介	健二
八幡小松	小林　直也	辰志
男山弓岡	辻　健志	善彦
男山雄徳	本部　愛弓	隆弘
橋本東刈又	谷口　恵麻	博俊
八幡舞台	平野絵梨子	芳孝
八幡吉野	椿井　美幸	幹郎
橋本平野山	河原　千尋	泰博
川口西扇	松原　新介	綱之
男山八望	澤村　健志	光広
男山香呂	大島　靖博	達男
八幡柿木垣内	林　晃久	眞司
男山雄徳	藤田　尚之	秀樹
男山笹谷	小林　大介	岳士
八幡双栗	三浦加奈世	晃通
男山金振	目次　翔太	正明
八幡園内	森田　早貴	正
八幡舞台	西村　美穂	茂文
八幡舞台	岡本　清香	淳二
男山八望	望月　弥生	政貴
八幡月夜田	金山　美貴	勉
八幡三本橋	松尾　郁也	勝彦

結婚

（敬称略）

住所	夫	妻
下奈良二丁地	大野　望	杉山美香代
八幡軸	山本　佳	西尾　朋子
男山笹谷	長　正志	松岡　陽子
八幡福祿谷	野田　利幸	安田裕賀里
戸津東ノ口	佐野　正人	津波　秀子
男山竹園	細川　興志	奥田　雅子
八幡山柴	立本　充志	奎井　美幸
八幡菖蒲池	藤本　剛	宮本眞由美
内里内	芝田　道隆	堀田　千穂
男山八望	礒田　泰博	末松　久美
八幡源氏垣外	小川富士夫	伊藤　美穂
橋本栗ケ谷	高畑　誠治	安東ゆかり
八幡北浦	上村　尚	辻村　佳代
八幡双栗	河貝良四男	吉田　洋子
内里東ノ口	長村　文明	味岡　美雪
美濃山幸水	新田　恭正	黒田　正美
男山弓岡	小林　昭雄	木下富美子
八幡舞台	藤田　正樹	奥　リ江
男山松里	藤本　典昭	松本ひとみ
八幡軸	東　彰	西村　由里
男山笹谷	丸野　清	島内千賀子
八幡源氏垣外	小林　博史	塩見久仁代
八幡月夜田	松吉　孝男	高田　清美
男山泉	村田　憲二	池田　由美
男山笹谷	百々　義紀	中島恵美子
八幡備前	立花　和夫	下山　妙美
八幡山田	田中　成昌	野手　ミエ
八幡備前	岡田　雅俊	深沢紀美子
男山金振	平原　秀一	野口美由紀
男山石城	佐藤　充	園田みどり
男山弓岡	山田　秀喜	佐々木公子
男山八望	笠松　宏	村瀬美千子
男山弓岡	伊藤　厚一	金星　宏美
八幡大芝	福原　巧	石原　直子
橋本狩尾	草柳　秀俊	中野　昌子
男山竹園	榎並　泰之	高橋　明子
男山石城	谷本　達久	奈良崎佳子
八幡長田	桝井　敦仁	高岡　敏恵
八幡軸	光山　末男	小林　美樹
男山雄徳	東方　忠雄	播本　理恵
男山八望	大石　基行	馬場　千恵
男山泉	芳村　浩二	河中美津子
男山笹谷	小林淳一郎	加地ひとみ